

久保之取蛇尾

初篇
上

415
415
1



門 5
號 415
卷 1-3

清水濱
臣藏書



係之取蛇尾序

ふのなまねとくろふふのまじ
ての飛とぬまのまひとのれ
あきろくもたにあさくたふを
ふはくろくまのまひとま
まくとまのまのまのまのま
ふの隙の約のあまのまのま
あまのまのまのまのまのま
のまのまのまのまのまのま

あつた家のこころの濱の濱も
りし^紅書も〜
毛の糸〜
江

〜

久保之取蛇尾目錄

玄旨の語

とまひの字

嘘は口かると云俚語

綱のめ風を付回

きさうよ小付回

松の火ハ松を回松の訓

吾等須強

志賀都

倭子

癩狂の訓

ふとたま

とと望

おさなま

〜

家身はめつて回

いさぬいら〜

切月よ志賀回

きさうよ松の年

むなま

きさゆあま

銀治から

鐙の訓

志賀たま

神あ

雨はをも使とらふ
ほろもを遊み

たんさく

雨とのう

佛は俗を

志のそま

あそもやれ詞詮記

人をあやめ日

そやめめ日

くづる日

そなつ日

おづ日

さいまぐれ日

埴ま衣きくきよ神
かへりのる

懐紙

止雨す

あちかみの海

むらう

喧嘩とての持ちさる日

日此月日

足の向く方日

耳よち日

そぐはる日

がら日

そはる日

そなま日

疹の訓日

みかく日

蛇瘡の訓

けはる日

櫛

まら日

人れおき日

せけ日

巫の口よ日

そと日

寸白

うつ日

店

自業自得果のうららきをうららけよ

おくられ枝のむらさきもきれおのづからうごけりて

又教政まゝ歌井園立十その中

おくられ枝のむらさきもきれおのづからうごけりて

昔もいれぬ火をいれよとよもく、信濃の信、や、核のま

と、いれぬ事、契沖師云、槍をととつて火のま、いれぬ事、

槍を帝宮の良材なるも、火のま、いれぬ事、

の材ま、いれぬ事、

○或人云、前より所謂、信濃のま、に信濃の信、よ、よ、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

いれぬ事、いれぬ事、いれぬ事、

五條后冬嗣公女
順子仁明后
或云長良卿女明
子文徳后

○井蛙柳異平云、故宗、一、信、子、載、事、を、り、被、撰、し、

車とハ金取もなきてよふりの物をはとあつく車を、よと
及し今れをぬ供るん此車の教なすし。枕草のよふにやいな
そ物かのいつあつてよやうな車、そのひきこむ、きこむ
異もよ、これあつてよ、車なすし、ものあつてよ、さば
よもきこむし。漢は所謂棧車。又万葉のよ、力車、の七車
とよめ、はらうし、車とは教なすし。

○千載集巻上 一とよむし 一とよむし 忠慶

さばやきのの教いあれし、を考はうし、のこころし、な

今按よ、久安ふし斗、尤もつ、智家ふ令、教位隆長 清輔本名

は、はやきあらの教いあれし、を考はうし、のこころし、な

拾遺集卷 廿二

あつたれし、梅のこころし、を考はうし、のこころし、な

忠及れし、は、はやきあらの教いあれし、を考はうし、のこころし、な

上ノ七

は、はやきあらの教いあれし、を考はうし、のこころし、な
よもきこむし。漢は所謂棧車。又万葉のよ、力車、の七車
とよめ、はらうし、車とは教なすし。

判者右京左史顯輔卿判云、はやきあらの教いあれし、を考はうし、のこころし、な
よもきこむし。漢は所謂棧車。又万葉のよ、力車、の七車
とよめ、はらうし、車とは教なすし。

續法抄云、近江國志賀

清梅肖ハアノ假字ニテヤカレトモタラ
 レイフ古書管ロエチチ盛ハハレハカ
 入江氏ハ假字ノ際ニハ妻ヲラネト見エテ
 此書中 律ニ假字ノタカヘノアリテ
 奇ノイカテアノハ称名院殿ノ説ノ如
 盛ニ遷ラヨセ九ナリ 古奇ニ多ク堪
 忍意ニアヘトイヘリ

以都追伎破夫利早川尔洗濯辛塩尔古胡登
 毛美高杯尔盛机尔立而母尔奉都也畧小螺
 をかり培よきふといつるをえきばいよく小螺ハ必培うてあへ
 むそ合せしとえきう。二首のまは培といはなかくもか
 らまその中とら母の幸芳城そくりなういふあへつる
 とはいうあやかりきふといはなう。古事記は肖とせう。躬恒
 きまよひきまあぬんをまうつらやあぬんをまはのまよふ
 はなうぬらけ肖は蓬をそくまうたう。きれハ小螺あくは
 まうに培くはまよ。はまあや。うてかくのまよまよま
 かんぞや。自らのまをまうまうけく。寒士のおまひを
 のへーなる

○中務をまへ

互らのまうつるをまへて。まへは。いそまものへひとらあかん

契沖師いそくけども此ハ鞍野して山姥ハ鞍岡あり。そまうまやま。

〇あゝのまきうをわきて。まへは。いそまものへひとらあかん
 もあり。傳言の傳うまて。第何句下との二ま上りなうて。まうて
 一文字の短く。まま乃やうまきま。いそまものへひとらあかん
 〇まの鞍野まといは。いそまものへひとらあかん。まのひとら
 まかまて。いそまものへひとらあかん。まのひとらあかん

○同業よ

神あまかけれかまて。まのまをまへま。まのまをまへま。まのまをまへま。
 同一人いそ。は神水といは。まのまをまへま。まのまをまへま。まのまをまへま。
 免らおれあまね。まのまをまへま。まのまをまへま。まのまをまへま。
 耳たうま。まのまをまへま。まのまをまへま。まのまをまへま。
 〇まのまをまへま。まのまをまへま。まのまをまへま。まのまをまへま。

安藝人頼氏は長竹といひて、藝州豊田郡味方下カメ今名

備後の國界は西く藝の東分也。鯛の浮事冬三月

三日の夜に浮き出、撞網してとらふ。あやして、きくもつは

海産に入らば鯛こそきく。えて紅なり。肉も赤せぬなり。こ

但し日本紀より六月といふ。よひ、あや、あま、は、は、は、この春

され、よひ、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

の海はあや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

○志の、よひ、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

とらひてよあや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

しあや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

きくもつは、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

社の、よひ、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

しあや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

此或書ハ 色葉和 難ナリ

今ノコト書トハ 新古今ナリ

入道茶園白太左衛門は、けり、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

乃中よ志、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

の、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、あや、あま、は、は、は、

ちのころそまといふまのなほく 和名鈔狗尾草 上又ノコタサ 詩、齊風甫田

章無田甫田維秀驕 云々 又孟子盡心章西秀恐

其乱苗也 云々 秘花おほはく 云々 ぬや 云々 人ふ

田 云々 草叢生 云々 ぬふ

云々 閣心訓 云々 ば

云々 けつ 云々 入る

云々 行

云々 但 云々 の

云々 物 云々 志

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

云々 後

瑞梅六日の舊蒲、當時、藤之
新撰、帖、あやかし、表、五
い、ま、今、右、の、あ、や、め、さ、り
人、し、ち、き、り、ん、が、り、ん、

光房、公、怪、し、三、管、た、一
ツ、ア、マ、ア、マ、ム、ト、ヨ、ム、レ
一、八、中、古、以、来、ノ、哥、三、律、
見、タ、レ、ト、教、害、ノ、意、三、用、
タ、レ、ハ、ナ、シ、全、ク、俗、語、ナ、リ、
コ、ニ、引、タ、レ、哥、ハ、山、家、集、
異、本、ニ、出、タ、レ、ト、誤、字、ノ、
マ、ニ、引、タ、レ、也、印、本、ノ、
山、家、集、ニ、ハ、
十、代、フ、キ、モ、ノ、ヲ、サ、ナ、カ、
ラ、ア、ツ、ム、ト、モ、君、カ、ヨ、ヒ、
ヲ、シ、ラ、ン、モ、ノ、カ、ハ、ト、ア、

皇建、内宿祢大臣、白、恐、我、天、皇、猶、阿、羅、婆、安、勢、其、大、御
琴、コトヲ、自阿至勢、以音、古、伎、の、巻、風、た、り、事、ん、ぶ、ー、

○俗、伎、は、けん、さ、る、る、の、棒、ち、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
つ、と、ん、ゆ、お、ま、お、魚、を、十、一、え、四、國、を、九、高、判、な、せ、め、な、さ、り、め、
今、ハ、何、の、用、さ、り、あ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、

○人、な、り、切、り、を、人、を、あ、や、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
も、古、伎、な、り、一、西、り、あ、ま、ま、さ、り、説、説

異本山家集
あ、や、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
歌、の、教、教、さ、り、さ、り、さ、り、

○は、相、持、を、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
○は、り、の、い、く、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
あ、や、さ、り、二、日、れ、め、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
と、い、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、

氏、原、鹿、を、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
○怪、漢、の、言、れ、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
自、由、な、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
又、第、四、射、往、廻、ニキ、モトホリ、上、さ、り、さ、り、さ、り、
伊、波、比、廻、モトホリ、上、イハ、イハ、
ほ、ら、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、

○怪、漢、の、言、れ、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
も、古、伎、な、り、竹、を、お、魚、を、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
い、か、ん、と、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
國、ハ、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、

○物、を、火、中、一、く、焼、を、ク、ル、と、つ、も、俗、な、り、さ、り、特、殊、な、り、
竹、を、お、魚、を、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
○お、や、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
住

事は...
○物の...
子と信...

○老人...
離...
○磁...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

○今...
○今...
○今...

[Faint, mostly illegible handwritten text in a cursive script, likely a historical record or account.]

泊酒舍藏

五

